



## 自信を持って納められるように 精一杯取り組んで行きたい

渡辺建具  
代表 渡邊 健次郎さん

同業者相手の仕事が多い。プロの建具屋さんたちが、手間のかかる、難しい建具の制作を依頼してくるのだ。佐賀県や熊本県の業者が多い。

技術力には絶対の自信がある。過去に全国建具展示会で、八度大臣賞を受けている。そのうちの二度は内閣総理大臣賞に輝いている。

今回の夢追い人は、渡辺建具の渡邊健次郎さん。先月の大川木工まつり期間中に開かれた大川優良建具展示会で、一位の

九州経済産業局長賞を受賞されたことから、取材させていただくことになった。

渡邊さんは、三代目。父親から伝統的な技術を継承している。もともと強く教えられたことは何だろうか？意外な答えだった。「基本を大切にすることです。」基本重視の姿勢だ。

たとえば材の面を直角にすること。機械を使えば簡単にできそうであるが、プロの観点からすると、これがとても難しいそうだ。「これができてないと、



2つの内閣総理大臣賞の盾とトロフィー

後の加工がうまくゆきません。微妙にゆがんだ製品になりますね。」

ほかにどんな基本があるのだろうか。「かんなの研ぎ方ですね。手かんなの場合、かんなの台が天候、湿度によってわずかに曲がります。それに合わせて刃を研ぐ必要があります。こまめに研ぐ必要があります。」素人ではわからない、超越した職人の世界の基本だ。ほかに、位置取りのための、墨つけを正確にすることも言われた。

話を聞いてどんな分野でも基本が大事だと、思った。さて、今度はデザイナーの話。技術だけでなくデザインも定評があるのだ。以前の全国建具展示会で、「出品している同業者から、毎年渡邊さんのデザ

インを楽しみにしているよ。」とよく言われたそうだ。大川建具展示会で今回受賞した作品も、お客から「デザイナーのセンスがいいですね。垢抜けている！」という声があった。「若い頃から、センスのいい



さまざまな手かんな

洗練された建具のデザインとは、何だろうと、自問自答してきました。最近になって、少しわかったような気がしています。」と話される。幾何学模様が好き。「それでパッチワーク、編み物、刺し子の本などを楽しんでいきます。」それらがデザイナーの感性に反映してきているという。

さて、仕事に取り組む姿勢についても話された。それは、「相手のことを考慮した仕事をする。」と。同業者であれば、一般の顧客であれば、例えば、同業者であれば、ガラスの取り付けなどの作業がスムーズに行くように心がける。相手のことを最大限配慮する。「渡邊さんのところに任せておけば間違いはないよ」という評価があるのもうなづける。技術、デザインだけでなく、相手の意向を十分配慮した仕事にこだわっているのだ。

さて、渡邊さんの夢は何だろうか。「仕事に対してこれからは精一杯取り組んで行きたいですね。同業者にも自信を持って納められるように。また、再来年は地元福岡で全国建具展示会が開かれます。近年は出品を控えていたのですが、時間が許せば、



トライしてみたいと思います。一年がかりの仕事になると思います。三度目の総理大臣賞が取れたらいいですね。」



ショールーム